

HOYOG 教区新報



兵庫教区教務所
ホームページ



兵庫教区教務所
facebook

浄土真宗本願寺派 兵庫教区教務所
〒650-0011 神戸市中央区下山手通8丁目1番1号(本願寺神戸別院内)
電話 神戸(078)341-5949(代)
【編集】 兵庫教区広報部

2026.4 225号



平成7年完成当時の色合いがよみがえった

覆っていた足場がすべて撤去され、竣工当時の外壁の色合いが美しくよみがえった。また、劣化が目立っていた1階ロビー前の前庭舗装も新たに整備され、道路へと続く階段についてもページジュ色のタイルで美しく施工された。さらに本年3月30日には、施工業者である星光ビル管理株式会社より工事完了に伴う正式な引き渡しが行われ、ここに1連の修復事業が円成した。なお、修復懇志については、兵庫教区内全寺院への依頼総額に対し、すでに80%に達するご協力を賜っているほか、門信徒の皆様、蓮華会をはじめとする企業・団体など、多くの有縁の方々からも温かいご支援が寄せられている。ここにあらためて深甚なる謝意を表するとともに、建設当時の美しさを取り戻した本願寺神戸別院および兵庫教区教務所・教化センターを今後にも変わらぬご参拝とご利用を賜り、兵庫教区の教化拠点としてともに歩みを進めてまいりたい。

浄土真宗のご本尊は阿彌陀如来という仏さまです。阿彌陀さまはお寺やお仏壇でじつとしていらっしゃる仏さまではなく、常に私とご一緒してくださっている仏さまです。どのようなお姿になってくださったのかというのと、「南無阿彌陀仏」という声の仏さま、お念仏となつてご一緒してください。目には見えなくても、阿彌陀さまは私の口から「南無阿彌陀仏」となつてこぼれ出てください、「あなたを救う仏がここにいますよ」といつでもどこでもご一緒してください。有り難い仏さまです。 神戸東組 妙善寺 上田泰地

1995年の竣工から30年を迎えた本願寺神戸別院および兵庫教区教務所・教化センターにおいて、昨年5月末より進められてきた大規模改修工事が、このほど無事に完了した。とから実施されたもので

ある。今回の大修復は、建物の老朽化対策はもちろんのこと、地下駐車場出入り口の安全停止機能付きシャッターへの取り替えや前庭階段への手すり設置等、参拝者の安全性向上にも寄与する内容となった。

工事では段階的に進められ、院内では法要や各種行事を通常通り執り行いながら、参拝者および利用者への影響を最小限に抑えるよう細やかな配慮がなされてきた。昨年12月末には建物を

未来を見据えた令和大修復工事、いよいよ完成へ!!

事前調査では建物の耐震性に問題がないことが確認された一方で、地下駐車場の漏水や前庭舗装の劣化、外壁の剥離など、各所に老朽化が見られたこと

ある。今回の大修復は、建物の老朽化対策はもちろ

工事では段階的に進められ、院内では法要や各種



毎年この時期になると、悩まされることがあります。それは目には見えないものですが、存在するものです。そう花粉です。日頃はその存在にも気が付かず過ごしていますが、ある日くしゃみや目がまらなくなったり、目が痒くなったりすると、「あ、花粉の季節か」となります。



50周年を記念し多くの会員が一堂に会した

仏教壮年会連盟
結成50周年
記念大会

3月29日、兵庫教区仏教結成50周年記念大会を開催した。記念講師には天岸浄圓師(行信教校長・大阪教区東住吉組西光寺住職)を迎え、念仏の大切さについて深いご教示をいただいた。記念アトラクションでは関西国際大学吹奏楽部が華やかな演奏を披露し、会場を大いに盛り上げた。大会参加者は250名、祝賀会には90名が参集し、節目の年にふさわしい意義深い一日となった。

第47回 西本願寺近畿地区 仏教婦人会大会

期日 2026(令和8)年9月30日(水) 講師 <記念講演> 鍋島 直樹さん(龍谷大学教授)
会場 【大会】神戸ポートピアホール <アトラクション> 姜 曉艶さん(二胡奏者)
【懇親会】神戸ポートピアホテル

親鸞聖人の師弟像 全7回
二〇二六年度
毎月第2土曜の
モダン寺土曜講座

お問合せ: 078-341-5949 (神戸別院)
メール: hyogo@modan-t.or.jp

第1回 4月11日(土) 師弟像の問題と浄土教の祖師像
第2回 5月9日(土) 法然上人の祖師像
第3回 6月13日(土) 法然上人の門弟像
第4回 7月11日(土) 親鸞聖人の師弟像
第5回 9月12日(土) 親鸞聖人の同朋像
第6回 10月10日(土) 和国の教主像
第7回 11月14日(土) 真宗歴代と妙好人の祖師像

※2026年は第2土曜に変更となります

時間 各回 13:30~15:30
場所 本願寺神戸別院
参加費 各回 1,000円

川添 泰伸 氏
講師
1949年5月 宮崎県出身
1977年3月 龍谷大学大学院文学研究科真宗学専攻博士後期課程単位取得満期退学
2018年3月 龍谷大学を定年退職(現在、龍谷大学名誉教授)
専攻分野 真宗学

本願寺神戸別院 恒例法要一覽

5月24日 降誕会 奈良教区 葛城中組 教善寺 森田真円師

6月28日 永代経法要 大阪教区 讃良組 自然寺 加藤真吾師

8月1日 暁天講座 兵庫教区 神戸東組 妙善寺 上田泰地師

8月2日 暁天講座 兵庫教区 加古川組 金照寺 宰務清子師

8月3日 暁天講座 兵庫教区 阪神東組 浄源寺 利國敦之師

8月15日 孟蘭盆会 本願寺神戸別院 輪番 西本浩二師

9月22~24日 秋季彼岸会 滋賀教区 坂田組 正行寺 藤浪正明師

11月26~28日 報恩講法要 東京教区 鎌倉組 善了寺 成田智信師

西暦578年創業 寺院建築
剛 金剛組

大阪本社 〒543-0051 大阪市天王寺区四天王寺1-14-29 電話 06-6779-7731
東京本店 〒104-0061 東京都中央区銀座7-12-7 電話 03-6853-8190
北海道支店・関東支店・名古屋支店・京都支店・九州支店・奈良営業所・広島営業所

お見積・資料請求などお気軽にお問い合わせ下さい 0120-054-731
https://www.kongogumi.co.jp/

「いのち」を考える研修会

三代目桂春蝶師匠が語る戦争の記憶

2026年1月17日、阪神・淡路大震災物故者総追悼法要にあわせ、神戸別院において「いのち」を考える研修会が開催された。今年も落語家・三代目桂春蝶師匠を講師に迎え、落語形式による講演「ひめゆり学徒隊秘抄録」が行われた。沖繩戦の現実と、極限の中で生きた人々の思いを通して、参加者一人ひとりが「いのち」と向き合う機会となった。講演では、昭和20年5月、南風原から沖繩南部のガマへ撤退したひめゆり学徒隊の少女たちの姿を軸に、戦場の過酷な状況が描かれた。砲火の中で看護活動、物資の不足する野戦病院の実情、仲間への死に直面する中で揺れ動く心情などが、落語ならではの表現で臨場感豊かに語られた。中でも、多くの死を目の当たりにし涙も出なくなった富ちゃんに対し、陽子先生が「それは人として当然のこと」と寄り添う場面は、極限状態に



観る者を引き込む落語

おける人間の心の姿を静かに伝える印象的な一幕となった。また講演では、両足を失いながらも肘で15キロを進み治療を求め続けた兵士や、麻酔のない手術に耐えた糸数ときおさんなど、絶望的な状況の中でも生きることを諦めなかった人々の姿も紹介された。そこにあつたのは「生きたい」「家族に会いたい」という切実な願いであり、春蝶師匠はそれを「いのちの声」として丁寧に伝えた。さらに、特攻隊員・松田良太郎が自ら畑となり、妻やひめゆり学徒を守った実話も語られた。この行動によって救われた学徒たちは、戦後それぞれの道で多くの命を支える人生を歩んだという。一つの命が未来の多くの命へとつながっていくことの尊さが示された。春蝶師匠は親鸞聖人の言葉を引用し、人は縁によっていかににもなり得る存在であることに触れながら、亡き人に手を合わせ、その歩みに思いを致すことが未来を守ることにつながると語った。阪神・淡路大震災から31年を迎えた神戸の地において、過去の悲しみに学びながら、いのちの尊さをあらためて見つめ直すひとときとなった。

真宗とゆかりある比叡山のお堂

親鸞聖人はかつて20年間、比叡山で修学されてきました。その比叡山には数多くのお堂がありますが、本連載では、特に浄土真宗とゆかりがあるお堂をご紹介します。関わりを知ると、また違った視点からお参りできるかもしれませんよ。

青蓮院

青蓮院は、比叡山延暦寺の三門跡(青蓮院・三千院・妙法院)の一つとして古くより知られています。門跡寺院とは、門主(住職)が皇族あるいは摂関家によって受け継がれてきた格式あるお寺のことをいいます。青蓮院の起源は、伝教大師最澄が比叡山延暦寺を開くにあたって、比叡山の山上にいくつかの僧侶の住坊を造つたうちの「一、青蓮坊」に始まるといわれています。青蓮坊は、伝教大師から第三代天台座主の慈覚大師円仁、千日回峰行の祖とされる相応和尚など、延暦寺における著名な僧侶の住居となり、東塔の主流をなす坊舎となっていました。平安時代末期、関白の藤原師実を父にもつ青蓮坊第十二代・行玄に鳥羽法皇が婦依し、法皇の第七王子・覚快を行玄の弟子として入寺させました。このような経緯から、後に青蓮坊は「院(上皇法皇)」の御所に準じて都に殿舎を造営し「青蓮院」と改称せられ、門跡寺院となっていくのでした。親鸞聖人の曾孫である覚如上人がまとめた「御伝鈔」によれば、聖人は九歳の時に青蓮院に

て慈円のもとで出家得度をしたとされています。現在、青蓮院は京都市中の粟田口にあります。京都市中の粟田口にありますが、当時はまだ青蓮坊として比叡山の山上にあり、しかも慈円の師で天台座主となっていた前述の覚快が、青蓮坊の主として住していました。慈円はこの頃、今の粟田口青蓮院近くにあった白川坊に住んでいたようで、もし親鸞聖人が慈円から得度の式を受けたのが事実であるならば、その場所は白川坊であったと思われまふ。得度の地が青蓮院であるという伝承については、白川坊が後に青蓮院本坊の中核として機能したことによるものではないかと考えられます。親鸞聖人の得度に際して、有名なエピソードが伝わっています。聖人が慈円のもとを訪ねた時、すでに夜だったので翌朝の得度式を提案されました。すると、わずかに九歳の親鸞聖人が、「明日ありと 思う心の仇桜(あんだんくろ) 夜半に風の 吹かぬものは」とその場で詠み上げたといわれます。いま満開に咲いている桜を、明日も見ることができたらうとうと安心して、夜中に嵐がきて散ってしまうかもしれぬ。人の命も同様に、明日が保証されているわけではないので、たつた今、得度の式を執り行っ



相愛大学 非常勤講師 阪神西組 信行寺住職 四夷法頭

ていただきたい、というお心が込められていました。和歌の名手としても知られる慈円は、幼い聖人の言葉に感銘を受けて、その日の夜のうちに得度式を執り行ったといわれています。現在、本願寺派の僧侶となる時には、本願寺御影堂において得度式が行われます。その際には日中にもかかわらず、お堂すべての戸を締め切つて堂内を真っ暗にし、蠟燭のみを灯すという厳粛な雰囲気の中で執り行われます。これは親鸞聖人が夜に得度式をされたという伝承に基づき、夜儀の儀礼空間を再現するものです。なお、青蓮院の境内北側には、親鸞聖人の得度の折に剃髪した髪の毛を安置しているとされる、植髪堂が建立されています。

保育連盟 園長・主任研修会

11月12日、「園児を守る、カスハラ対策」の題目で心理学博士の掛札逸美先生にZOOM講義形式にてご講義頂いた。

内容は保育施設へのカスハラ！ハラスメント(社会通念上不当な要求や言動により職員に心身の苦痛を与える行為。以下カスハラ)対策。講義では、たとえ園側に不手際があったとしても、暴言や執拗な要求は許容されない点や、逆にサーブスの問題点や欠陥の指摘に対し、対応のまずさからカスハラに至るケースがあり、求められる内容及び質の保育を提供しているかの指摘があった。

出席の各園長・主任の方々は、以上の判断、言動、行動をリーダー層が実行でき、職員に教育することが必要なことを学べた研修会となった。

自死者追悼法要実行委員会 自死問題公開講座

11月14日、自死に向き合う関西僧侶の会代表・関本和弘氏をお招きし、自死問題についてご講義頂いた。近年の自死者数の推移や年代別の傾向を示しながら、複合的な要因があると解説された。また、関本氏の活動を通して感じたことを踏まえて、相手の言葉を受け止め続ける姿勢の大切さを実感した。自死問

仏教青年連盟 戦後80年公開研修会

11月23日、「平和を願って80年 戦争を風化させないために今、私たちができること」と題し、神戸空襲を記録する会事務局長の小城智子さん、神戸大空襲体験者の榎靖夫さんよりご講演頂いた。研修会では、小城さんより動画やパネル展示を利用して空襲の状況を中心に、榎さんからは80年前の空襲の様子を自身の体験を踏まえてお話しされ、「平和」への思いと「いのち」について考える貴重な時間となった。



参加者の質問に答える小城さん

寺族婦人会連盟 研修旅行

12月2日、「有馬で学びと癒しのひととき」と題して、研修旅行を開催した。宝泉寺へ参拝し、岡村喜史先生(本願寺史料研究所上級研究員)より、本願寺と有馬温泉の歴史の関わりについて講義を受け、学びを深めた。



プロのパフォーマンスに子どもたちは大興奮!!

少年連盟 震災支援報恩講子ども集い

12月20日、31回目の開催となる報恩講子ども集いの開催され、教区内各地より約200名が参加。午前中は本堂にて式典が行われ、「正信偈」をお勤めし、昼食では各教化団体より屋台形式で昼食が振舞われた。午後からは、お楽しみタイムとして少年連盟によるゲーム大会や広島を拠点に活動する「おんぶらんと」によるパフォーマンスショーを開催し、大盛り上がりとなった。



紅葉は終盤であったが小春日和に恵まれた

その後、向陽閣で和やかに昼食を頂き、自由散策を通して親睦を深め、実りの多い有意義な一日となった。

ピハラー兵庫 長島愛生園清掃・交流会

1月19日長島愛生園を訪れ、真宗会館の清掃を実施。交流会では入居者や参加者がそれぞれの思いについて語りあった。交流会後、昨年11月にオープンした体験型展示施設「でんしゅう愛生館」を見学・VR仮想現実シアターや展示内容に触れながら、長島愛生園の歩みとハルセン病問題について理解を深める貴重な機会となった。



清掃活動のなかでのコミュニケーションがその後の交流会に生かされた

仏教婦人会連盟 幹部研修会

1月21日、「私の宗教、みんなで語り合いましよう」をテーマに、幸務 清子先生(本願寺派布教使・金照寺)



フルートとオーボエのデュエット

を講師に迎え研修会を開催した。先生のご法話とオーボエで、「ガブリエルのオーボエ」みんな花になれ「いのちの歌」などの演奏、歌唱いただいた。様々な曲を通して、宗教を身近に感じるひとときとなった。

寺族婦人会連盟 坊守・新坊守のつどい

2月3日、「今さら聞けない!浄土真宗の基本的なキ」をテーマに西本浩二教務所長が講義を行った。第1部では、浄土真宗の基本的な教義について、あらためて分かりやすく学んだ。第2部では質疑応答の時間が設けられ、日頃の疑問を共有しながら理解を深め、参加者にとって学びの多い有意義なひとときとなった。

特別法務員協議会 一泊研修会

2月17、18日に京都にて1泊研修会を開催した。初日は「臨濟宗大本山南禅寺」



臨濟宗大本山南禅寺

へ、2日目は「浄土宗西山禅林寺派総本山永観堂禅林寺」を訪れた。研修会では、職員の方よりお寺の歴史や堂内見学、境内地を中心に丁寧に説明していただいた。堂内では本派では見ることができない荘厳を目にすることが出来、2日間の期間中参加者一同が学びを深める有意義な研修会となった。

戦後80年研修会 「原爆被害とその後の人生」

2月27日、2025年度が戦後80年の節目ということで、非戦・平和をテーマとした研修会を開催した。ご講師は、2024年にノーベル平和賞を受賞された日本原水爆被害者団体協議会の代表委員であられる箕牧智之さん。父を探し、入市被爆された際の凄惨な広島市の様子や、ノーベル賞受賞が通知された際の喜びなどをありのままに講演していただいた。被爆の記憶を語り継ぐことの大切さを改めて感じる研修会となった。



現在の世界情勢についても語られた